

令和6年度 評価計画及び自己評価

(計画 (中間) ・最終) 阿賀中学校区 校番 8 学校名 呉市立阿賀小学校

a 学校教育目標	自ら伸びる ともに伸びる	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉(学校の使命) ・地域との協働のもと 主体的・自律的に生きる子どもを育成する。 〈ビジョン〉(将来の学校像) ・阿賀学園地域教育連携協議会(アカデミア)の活動を生かして、「活気ある楽しい学校」「保護者・地域から信頼される学校」「やりがいのある学校」を目指す。
----------	-----------------	----------------------	---

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	阿賀中学校区は研究テーマを「主体的に学び、ともに伸びようとする児童生徒の育成」、副題を「授業や生活における居場所づくりを通して」と設定し、小中の教職員が一丸となり研究を進めてきている。その成果として、子ども達の実態や多様性を共有し、個への働きかけや支援の充実を図ることができるようになってきている。こういった個の支援の充実を図りながら教育実践を積み重ねた結果、阿賀中学校区の授業スタイルは確立し、SSR等を効果的に活用することができた。今年度は、昨年度までの研究の取組みを浸透させ、PDCAのサイクルを回しながら、方策や手立ての深化や拡充に努めていきたい。 めざす子ども像 自分の考えをもつ子ども・最後までやりきる子ども・認め合い励まし合う子ども
------------------------------	---

育成すべき資質・能力	知識・技能	思考力・判断力・表現力	自らへの自信	思いやり・感謝・貢献
------------	-------	-------------	--------	------------

評価計画(中期経営目標を設定してから 1 2 3 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	学力の向上	①基礎基本の学力の定着を図る。	・学力調査等の課題を踏まえ、指導の重点を定める。 ・「ドリルタイム」を年間計画に従って継続して取り組む。 ・漢字・計算の反復練習や課題克服のための学習を実施する。 ・個の課題に応じて、個別指導を行う。	・全国学力・学習状況調査において正答率30%未満、無回答率を「0」をめざす。 ・標準学力調査で全国平均より全校平均がプラス18点以上をめざす。 (※各学年プラス3点以上) ・国語と算数の単元テストの平均点	95% 100% 85%	97% 88%	102% 92%	A B			
			・授業改善を進める。 ①問いをつくる ②自分の考えをしっかりとつ ③みんなの考えを交流する ④発展的ふりかえりの時間を確保する。	・児童の授業満足度(よくわかる)	90%	93%	103%	A			
**	自尊感情の高揚	①規範意識を高める。	・生活目標を示し、「返事・あいさつ・くつそろえ」を点検させる。 ・縦割り掃除を無言で行う。	・「返事・あいさつ・くつそろえ」の自己評価	90%	87%	97%	B			
		②思いやりの心を育てる。	・子どもの心に寄り添った働きかけ、縦割り班活動やクラスチャレンジ、AJV等の活動の充実を図る。 ・「くん・さん」や「ほかほか言葉」を使う。	・「学校が楽しい」の自己評価 ・「自分にはよいところがある」の自己評価	85% 85%	86% 84%	101% 99%	A B			
*	基本的生活習慣の定着と体力の向上	健康な生活を増進させる。	・学級担任、養護教諭、栄養教諭が連携した食に関する授業や食育朝会を行う。 ・定期的にあがっ子生活カードで点検し、保護者啓発を促す。	・「早ね・早おき・朝ごはん」の達成率(毎日朝ごはんを食べる。)	97%	96%	99%	B			
		体力の向上を図る。	・体育授業の充実、「阿賀小準備運動」・「あがっ子運動」を実施する。 ・体力テストに向けて体力アップキャンペーンを実施する。	・新体力テスト(50m走、握力、反復横とび)が県平均を上回る。	65%	28%	43%	D			

業務改善	やりがいのある学校づくり	児童生徒と向き合う時間を確保する。	・会議時間、研修時間等を短縮する。	児童生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合	80%	88%	110%	A			
		長時間勤務を削減する。	・平日18時30分退校、週1日17時退校を徹底する。	時間外勤務が月45時間を超えない教職員の人数	96%	52%	54%	D			

【k: 自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

阿賀中学校区 校番8 学校名 呉市立阿賀小学校

重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	学力の向上	書 基礎基本の学力の定着を図る。	○全国学力・学習状況調査の正答率30%未満については96.6%, 無回答率を「0」については87.7%, 単元テストの平均点は国語科, 算数科とも85%, 児童の「授業満足度」は, 93%で, 全国学力・学習状況調査に課題が見られた。 学年始めに発展的振り返りの校内研修等を実施することで, 発展的振り返りの質の向上を図った。また, 児童の実態を把握することで個に合わせた学習を学年で揃えて行うことが出来た。基礎・基本の学力を定着していくために, ドリルタイムや授業の展開の仕方を一層改善していく必要がある。	・聞くことに課題がある。メモを取ったり書くことに時数制限を設けたりすることで, 聞く力の向上を図る。また, 音読や読書を意識的に取り入れ, 基礎学力の定着に結び付ける。 ・算数科では, 図と式を関連させながら問題を解くことを繰り返し行う。 ・児童の躰きを把握した上で, スキルタイムや隙間時間に漢字・計算の反復練習を行い, 基礎学力の定着を図る。 ・対話や班活動では, ねらいを焦点化し, 対話の必然性をもたせる。 ・授業満足度は高いが, 学力の定着が十分ではない。めあてからまとめ, 発展的振り返りといった授業実践を積み重ね, 児童の主体的な学びを通して, 児童の思考力・判断力・表現力の向上を目指していく。
**	自尊感情の高揚	貴 規範意識を高める。 貴 思いやりの心を育てる。	○●「くつそろえ」は91%で目標値を達成したが, 「返事」は85%, 「あいさつ」は84%であった。 ○●「学校は楽しい」は86%で目標値を達成したが, 「自分には良いところがある」は84%であった。 委員会でのキャンペーンや生活目標などで規範意識を高めることができた。また, 機を捉え学年集会や学級で繰り返し指導をしたが, 徹底までは至らなかった。児童主体の取組を仕組むと共に, 教員が共通認識をもち声かけを継続させる必要がある。 AJV活動やAJV Jr., クラスチャレンジやクラスでの係活動等を通して児童に役割を与えることができたが, 自分の良さに児童が気付くことができるような声かけや取組を充実させることができなかった。	・委員会活動やクラスチャレンジ等学校全体で取り組む活動を継続させたい。生活目標を学年で振り返る等, 日々の生活の中で規範意識を高めていく。 ・縦割り班活動や学年の中で「いいところみつめ」の活動を仕組んだり, 帰りの会等を活用して児童同士が互いに認め合う場面を意識的に仕組んだり, 全教職員が児童への肯定的評価や前向きな働きかけを意識することで, 自己肯定感の高揚につなげていく。 ・QU調査の分析をし, それぞれの課題を把握することで, 個に合わせた取組を行い, 学級経営に反映させる。
*	基本的生活習慣の定着と体力の向上	健康な生活を増進させる。 体力の向上を図る。	●学校評価アンケートの結果(肯定的評価)では, 「朝ごはん」は96%で昨年度より0.5ポイント増加したが, 目標値に達成しなかった。「早寝」は75%, 「早起き」は84%であった。 ○●新体力テストでは, 「50m走33%」「握力25%」「反復横跳び25%」と県平均を上回ることができなかった。 ○食育朝会で, 生活リズムを整えることの大切さについて話したり, 簡単朝食のレシピを紹介した。発達段階に合わせたレシピを紹介することで児童が取り組みやすいように工夫した。 ●6月実施のあがり子生活カードの結果では, 毎日朝ごはんを食べている児童は86.3%で昨年度より2.6ポイント減少していた。	・食育に関する授業や学年朝会を活用して, 早寝・早起きの効果を繰り返し伝え, 児童自身の意識を高める。また, 委員会活動の給食時間の放送や栄養教諭と連携した学級活動等を継続し基本的生活習慣の定着の向上を図る。また, 第2回のあがり子生活カードでは, 前回の結果を振り返りながら実施させ, 学年通信や懇談会等で保護者に啓発すると共に, 気になる児童には個別で保護者連携を行う。 ・2学期に行う第2回新体力テストに向けて, 握力の記録の向上を目指し, 体力アッププログラムに握力の項目を追加したり, 全校で取り組むために, 運動委員会がキャンペーンを実施したりすることで握力向上の徹底を図る。また, 体育の授業での運動量の確保, ハンドクリップの活用, 外遊びの奨励を行い体力の向上を図る。
業務改善	やりがいのある学校づくり	児童生徒と向き合う時間を確保する。 長時間勤務を削減する。	○●児童と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合は, 87.5%, 月45時間を超えない教職員の人数の割合は, 52.2%であった。 ●生徒指導の対応に時間がかかることがあった。 ○学習指導や生活指導など, 同学年やまわりの先生方に助けていただくことができたので, 少しずつ児童が落ち着いてきた。そのため, 放課後を授業準備の時間等にあてることができるようになってきた。 ●業務が立て込み, 退校時刻を超過することがあった。 ●時間外勤務月45時間を超過した教職員は, 4月47%, 5月60%, 6月50%であった。行事があると, 業務が忙しくなり45時間を超過する教員が増えるので, 計画的な取組が必要となる。	・2学期はより見通しをもって優先順位を考えて, 計画的に取り組むことで, 効率的な作業配分を行い, 個人作業の時間を確保し, 時間外勤務の時間を減らしていくようにする。 ・授業改善や個に応じた声かけの仕方をこれまで以上に学年で共有することで, 気になる児童以外の個への温かい声かけを増やしていく。 ・会議を精選し, 掲示板やタブレットを活用して共通認識を図る工夫を行う。また, 会議時間の時間を厳守する。 ・ペーパーレス化を図ったり, パソコン環境等を整えたりして効率的な職場環境の創造を継続して行う。 ・教材や文書等を共有することで, 業務の効率化を図る。

令和6年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

阿賀中学校区 校番 8 学校名 呉市立阿賀小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	児童の実態を根拠として適切に設定されている。学校の方針を共有していることが伝わってくる。
目標達成のための方策の適切さ	A	具体的で適切な内容となっている。伝統を大切にしながら深化をさせていることが素晴らしい。児童の主体性を伸ばす取組みがされている上に、高学年になるにつれてその意識が高まっている。 また、同じ取組でも1学期と比較するとレベルアップしている。タブレットが導入されることで、体験活動や書く活動が減っていると言われているが、何を選ぶと効果的かを考え、しっかりと取捨選択をされている。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	アンケートや客観的資料を基に、適切に分析されている。数値を比較したり、昨年度とも比較したりして、きめ細かく結果について考察されているので、今後の改善に期待がもてる。
今後の改善策(案)の適切さ	A	分析結果に基づき改善策が具体的で達成が目指せる内容となっている。伝統を大切にしながらも、深化させた改善策になっている。
その他		若い先生が増え、移動で入れ替わりが多くあった中で、子供たちが落ち着いて学習している。また、教室の中で先生と児童が共に授業を創っていることがわかる。また、どの学級にも児童の居場所がある。学校長のリーダーシップのもと、教職員がチームとして支え合い高め合っていることが感じられる。 対話においても、近くの人と自然体で話せており、必要感のある対話が生み出されている。対話の内容も深い。 同一の教材研究をし、学年で共有することができている。また、交換授業も生かされており、学年団として取り組んでいる姿が見られる。 第1回の学校評価委員会や学校保健委員会等で話し合われた内容が、次の会には改善策が講じられている。スピード感があり、内容も素晴らしい。 長時間勤務の削減は難しい課題である。学校が努力されていることは伝わってくる。先生が元気で健康であることが大切なので、今後も、メリハリをつけ工夫されることを期待している。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	授業や生活における居場所づくりを通して、主体的に学び、ともに伸びようとする子どもの育成を、今後も継続して取り組む。 学校関係者評価委員さんの評価を受けて、「学力の向上」「自尊感情の高揚」「基本的生活習慣の定着と体力の向上」については、様式3ー2「結果の分析及び今後の改善策(案)」の「今後の改善策(案)」をチーム阿賀小として、自信をもって取組を進めていく。 これまで以上に、組織力を高めていくために、例外なく同じ方向を教職員全員が見据えていく。取組がうまくいかなかったとしても振り返りを十分にを行いながら取組を継続させる。また、多忙感はあるが、教員一人一人が充実感をもてるように組織で取組内容の改善を図っていく。
--------------------	---